

UI/UXデザイン



ととのえ〜る



食事で栄養管理するフードデリバリーサービス

Process

背景・リサーチ

栄養不足のリスク



人体は様々な栄養素から構成されている

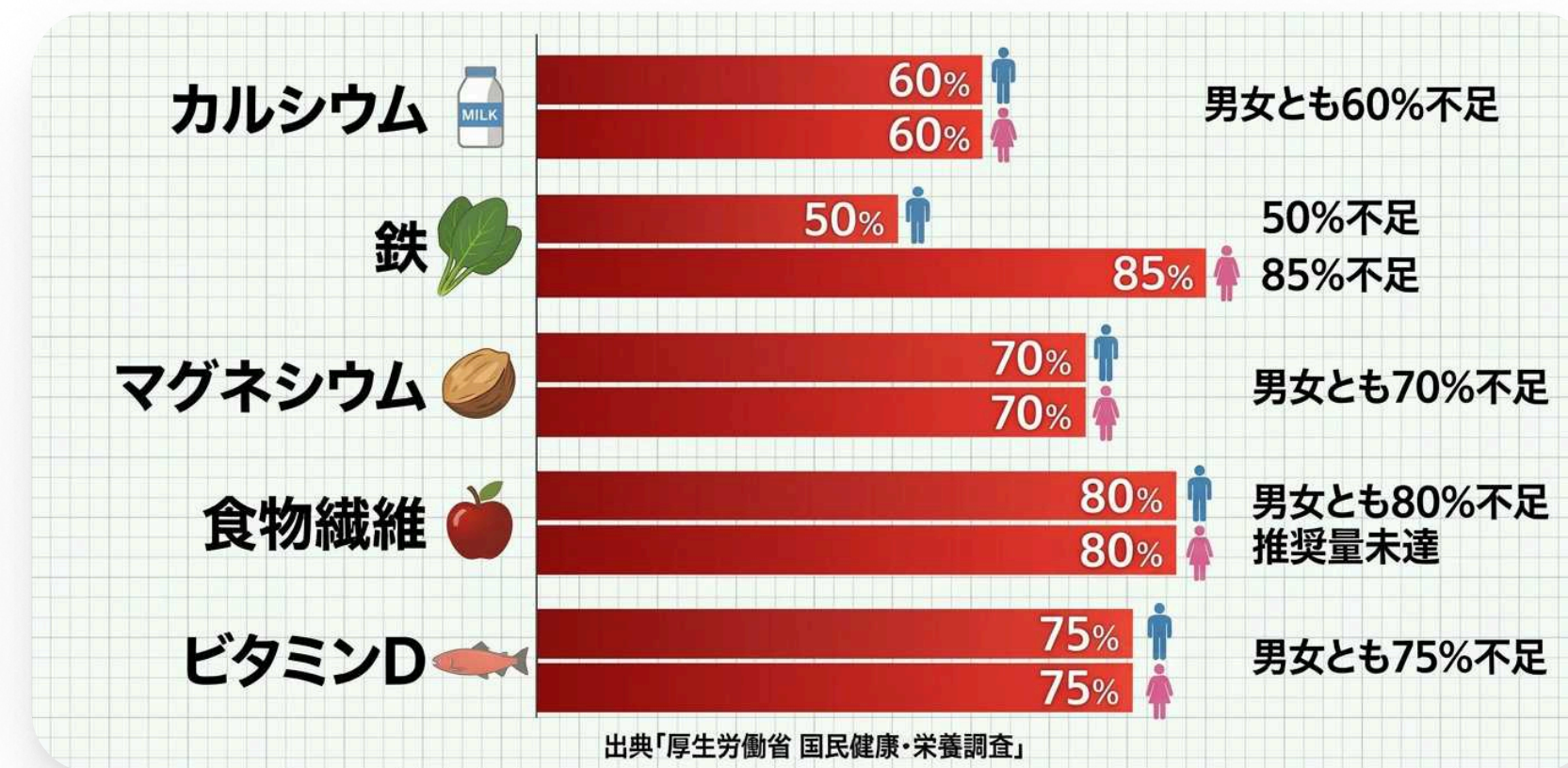
栄養素不足による主な症状

髪抜け毛	口・舌炎症
皮膚乾燥	心臓乱れ
頭痛	肺息苦
目疲れ	胃・腸痛み
脳混乱	腎臓・膀胱滴
鼻詰まり	骨・関節・筋肉・足痛み



複数の症状を引き起こす

栄養素不足の人口割合（一例）



多くの日本人が栄養素不足

栄養管理への取り組みの現状



・ 献立表

栄養バランスを考慮して制作するには管理栄養士などの専門的な知識が要る。乱れたときに修正が難しい。



・ サプリメント

まずいのを我慢して飲む必要がある。沢山の種類がある中、健康状態に応じて適切に組み合わせるのは難しい。



・ 栄養管理アプリ

食事記録を入力するのに手間がかかる。正確な栄養素の記録が難しい。不足量が分かっていても行動に繋がりにくい。

Process

ペルソナ・カスタマージャーニーマップ



東雲 壱馬

20歳 大学生 スポーティ

- 一人暮らし
- テニス部
- 週2でジム
- 料理が苦手

栄養課題 試合前の栄養管理



日向野 遥香

35歳 会社員 インドア派

- 家族暮らし
- リモートワーク
- 週1でヨガ
- コンビニで昼飯

栄養課題 モチベーション維持

	ニーズ認識	情報収集	購入	摂取
行動	試合前に栄養管理を計画する	栄養のあるレシピを検索する	生鮮食品を近くのスーパーで買う	買った食材を調理して食べる
意識	献立を立てて栄養調整をしよう	自分に合った献立を立てよう	献立に合わせて食材を買おう	料理は難しかったけど美味しい
課題	栄養の知識がない 健康食品はまずい	時間がかかる 自分に合わない	売っていない 冷蔵庫が満杯	料理の手間 食材の管理
感情	😊	😞	😞	😊
解決策	美味しく栄養摂取	最適なレシピを自動で提案	注文可能リアルタイムで確認	フードデリバリーサービスの使用

	ニーズ認識	情報収集	購入	摂取
行動	年齢と運動不足で体力が衰える	同僚や友達と健康対策を話す	ネットでサプリを注文する	食後の後にサプリを飲む
意識	健康のために何かしよう	健康食品やサプリを摂取しよう	自分に合うサプリを選ぼう	食事を記録して不足分だけ飲もう
課題	仕事で時間がない 外に出たくない	明確な目標がない 美味しくない	コストが高い よくわからない	効果が見えない 組み合わせが面倒
感情	😊	😊	😞	😞
解決策	自宅で健康的な食事	設定した目標を日々の食事で達成	注文前に栄養情報の解説	食事で得た栄養素を可視化

Process

サービス概要

コンセプト

栄養状態でパーソナライズされた
フードデリバリーサービス

ロゴデザイン

シンプルな構造・色調である
ことで想起しやすく



ブロッコリー・ぶどう・りんご・葉で
栄養バランスの良い食事を表現

円形に囲むことで
料理皿のような印象に

曲線的で流動的な構成で
体内での栄養素の循環を表現

サービス名・サブタイトル

「ととのえ〜る」

栄養が自動で整うフードデリバリー

キャッチコピー・ステートメントコピー

「あなたのからだに、え〜るを」

美味しいご飯を必要な栄養とともにあなたにお届け。
栄養管理を「努力」から「無意識の習慣」へ。
意識せず誰もが健康になれる新しい食体験。

How To Use

ととのえ〜る — iPhone 17 UI フロー 栄養状態でパーソナライズされたフードデリバリーサービス



How To Use

オンボーディング

01 — スプラッシュ画面

スプラッシュ画面では、ブランドカラーのグラデーションとロゴで「ととのえ〜る」の世界観を表現します。

キャッチコピー「あなたのからだに、え〜るを」で、栄養管理を習慣化するコンセプトを明確に伝えます。

02 — プロフィール入力画面

ログインすることによってユーザーごとにデータを保存でき、パーソナライズされた栄養管理が可能になります。

年齢・性別・身長・体重・活動量の5項目と目標タグの選択だけで、パーソナライズされた栄養プランを自動生成します。

💡ここがポイント！

既存の栄養管理アプリの最大の離脱ポイントは「記録の手間」
このフェーズでは一切の食事入力を求めず、注文データから自動的に栄養が記録される仕組みにすることで、使い続けるための基盤を作る。



How To Use

ダッシュボード

03 — ホーム画面

パーセンテージを大きく表示するヒーローカードで、ユーザーは最初に現在の栄養状態を把握できます。

グラデーションカードは達成感を演出し、継続へのポジティブな動機付けになります。

レーダーチャートで5大栄養素の充足割合が視覚的に簡単に理解でき、その下で詳細に栄養素の不足割合を確認できます。

プログレスバーは色で栄養状態を直感的に把握できます。
(緑：良好 / 黄：不足 / 赤：かなり不足)

不足している栄養素には専用のアラートバナーが表示されることで、一目ですぐに摂取すべき栄養素がわかります。

「メニューを探す」ボタンを下に表示することで、不足栄養素の確認から料理を注文するまで繋がります。

💡ここがポイント！

「不足量がわかってでも行動に繋がりにくい」という課題を解決するためダッシュボードのCTAは常に「メニューを探す」の一点に絞る。
不足 → 提案 → 注文の導線を最短3タップで完結させる。



How To Use

注文

04 AIメニュー提案画面

過去の記録から算出された不足栄養素の量を効率よく満たせる料理をAIが提案します。食べたい料理名やカテゴリから絞り込めます。

05 栄養情報詳細画面

選択した料理の詳細を確認できます。現在の不足量に対してどれだけの割合が補充されるかをプログレスバーで把握できます。

06 注文確定

配達先や配達時間・商品情報・金額・支払い方法の確認ができます。「他にも追加する」で04の画面に遷移し、商品の追加ができます。

💡ここがポイント！

この3画面は「選択→確認→決定」の認知プロセスに対応している。各画面で一つの判断のみを求め、情報の過積載を防ぐ。注文確定後は自動で栄養ログに記録されるため、ユーザーは記録しなくて良い。



How To Use

ログ

07 栄養ログ画面

週間達成率のグラフで週の栄養摂取量の比較を容易にし、栄養状態の推移を見せることで長期的な継続を促します。

固定化された文章のレポートではなく、AIによる考察を交えることでよりパーソナライズされた情報提供が可能になります。

レポートでは今後どのような栄養素を摂取すればよいか、またその栄養素を多く含んだ食材は何かを教えてください。

その日の食事をタイムラインで表示することで、どんな献立の日がより栄養摂取ができていたか比較することができます。

これらの栄養ログはすべて注文した商品の情報を基に自動で制作可能なもののため、ユーザーが記録する手間を省けます。

過去の記録を振り返ることで、栄養素と料理の関係の学習に繋がり、アプリ外での食習慣の改善にも貢献します。

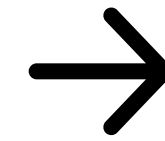
💡ここがポイント！

「効果が見えない」「組み合わせが面倒」というサブリ離脱の原因を、食事で得た栄養素の可視化と自動記録で解消する。継続することが「無意識の習慣」になる設計が、「ととのえ〜る」のコアバリューだ。



Conclusion

概要



既存の栄養対策の限界



コンセプト
栄養状態でパーソナライズされた
フードデリバリーサービス

解消点・到達点

- サプリメントは種類が多く自分に合う組み合わせが難しいが、料理という形で美味しく・自然に必要な栄養素を摂取できる。
- 注文データから自動で栄養ログを生成する仕組みにより、既存の栄養管理アプリ最大の離脱原因だった入力の手間を排除した。
- 栄養情報詳細画面で不足分との対応を数値で示し、納得して注文できる意思決定支援を実現した。
- 先週比や翌日への提案をパーソナライズして表示することで、継続効果が見えるようにした。

懸念点・改善点

- 店舗が提供する料理ごとの栄養素データに依存するため、加盟店へのデータ入力フロー設計・標準化が必要になる。
- 自炊・外食・コンビニなど注文以外の食事は現状ログに反映されず、達成率の信頼性が下がる。写真認識や手入力との併用が検討される。
- フレンドの週間達成率比較・ストリーク共有などを加えることで、個人の意志力に頼らない社会的継続動機を作れる。
- 連続達成バッジやレベルアップなどのゲーミフィケーションで、ログを開く行動自体に報酬感を持たせ、アプリ定着率を高められる。